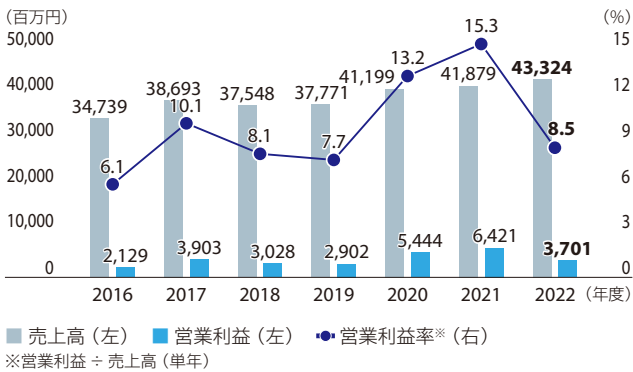


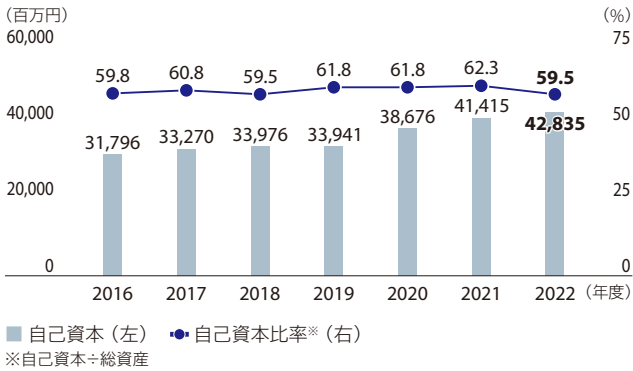
財務・非財務ハイライト（連結）

売上高、営業利益、営業利益率



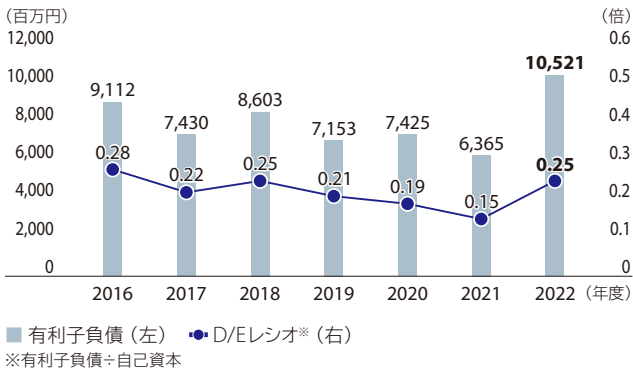
売上高は、43,324百万円と、前期比3.5%増となりましたが、営業利益は、前期比42.4%減の3,701百万円、営業利益率は8.5%となりました。機能性色素セグメントにおける有機EL材料の需要が増加した一方で、PCR診断キット用材料の需要が大幅に減少しました。

自己資本、自己資本比率



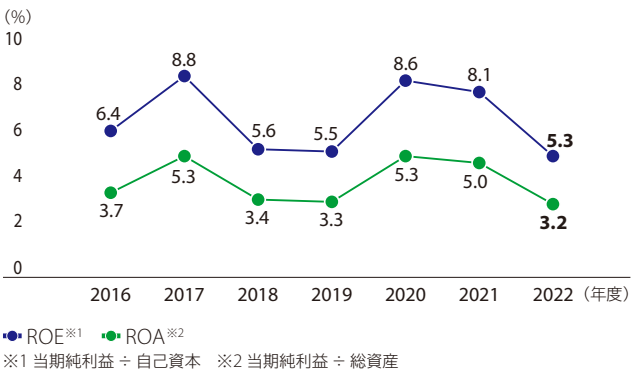
自己資本比率は、近年は60%前後で安定的に推移しております。今後とも事業から得られる利益を中心に自己資本を蓄積し、さらなる経営基盤の安定化を図ってまいります。

有利子負債、D/Eレシオ



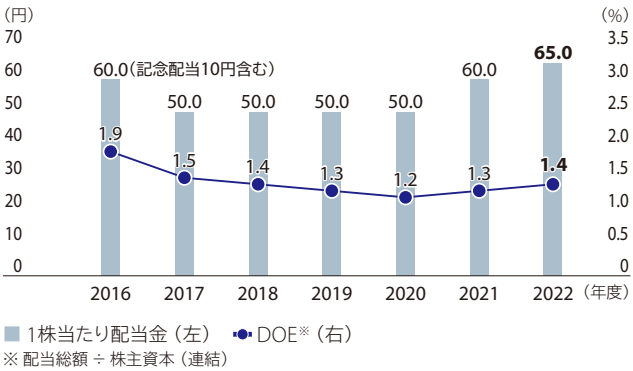
中期経営計画の戦略事業への投資等への対応による有利子負債の増加により、D/Eレシオは、0.25倍となりました。

ROE、ROA



2022年度は、利益の減少により、ROE、ROAともに低下しましたが、今後も利益の拡大を目指しつつ、資産の効率化を目指してまいります。

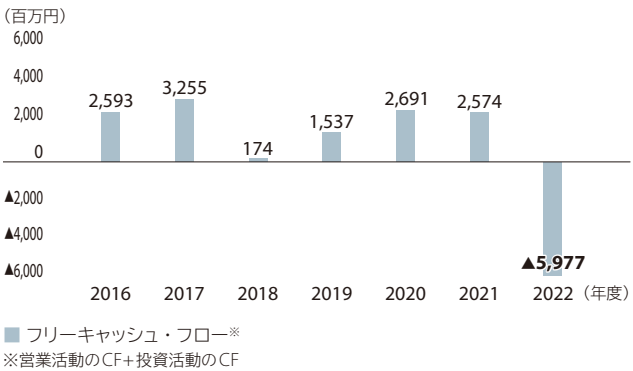
1株当たり配当金、DOE



業績動向・将来の事業展開・不測のリスク等を総合的に勘案し、特に、「株主資本配当率（DOE）」を意識し、今後とも安定的・継続的に、株主の皆様への適正な還元を実施してまいります。

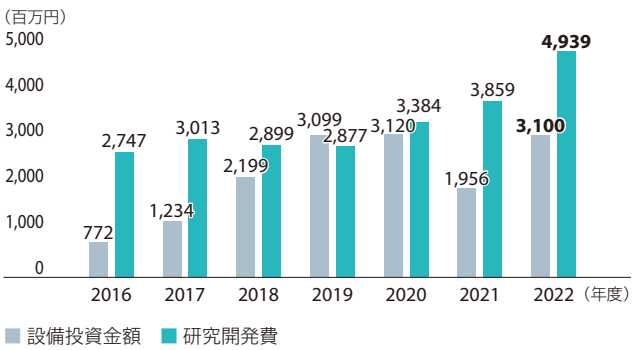
※保土谷化学は、2016年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株とする株式併合を実施いたしました。

フリーキャッシュ・フロー



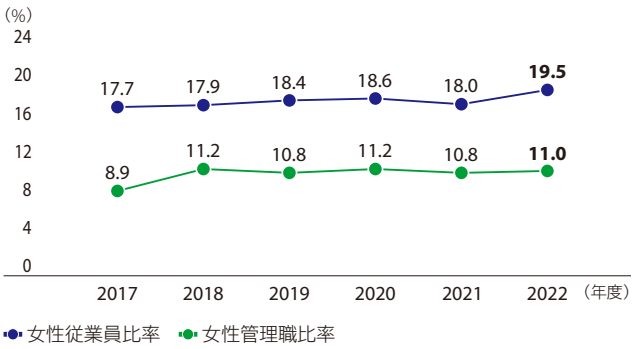
2022年度は、将来の成長に向けた投資や在庫増加に伴い、フリーキャッシュ・フローは大きく減少しましたが、引き続き、営業活動・投資活動をバランスよく実行し、将来の成長に備えてまいります。

設備投資金額、研究開発費



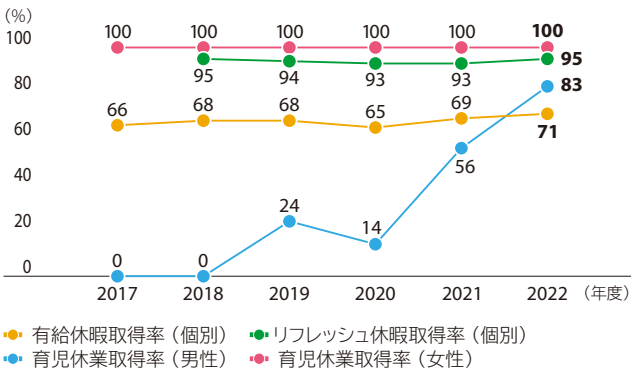
保土谷化学グループの成長ドライバーである機能性色素セグメントにおける設備投資、研究開発が中心となっており、将来の成長に資する投資や活動を継続して実施してまいります。

女性従業員比率、女性管理職比率



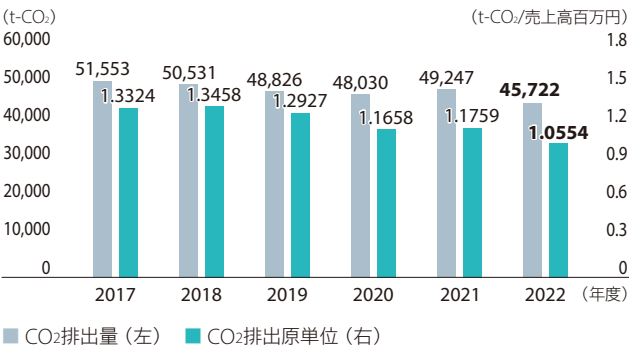
保土谷化学グループでは、重要施策の一つとして、女性の活躍を推進しております。2018年度以降は女性管理職比率10%以上を達成し、2025年度には13%以上を目標としてまいります。女性管理職比率の向上に向け、さまざまな施策を実施しております。

有給休暇取得率、リフレッシュ休暇取得率、育児休業取得率



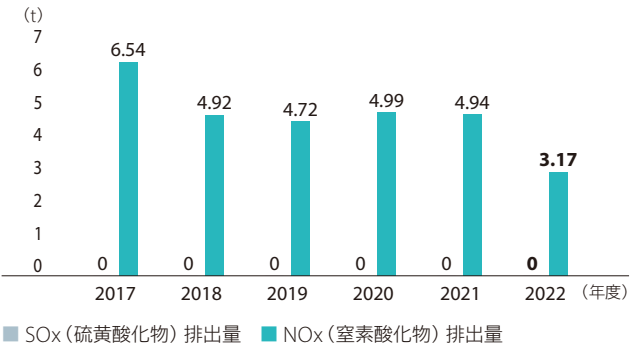
保土谷化学の年次有給休暇取得率は過去6年間60%以上を維持しているのに加え、年次有給休暇とは別に、5営業日連続で取得できる「リフレッシュ休暇制度」を2018年度から設けており、従業員の心身のリフレッシュに活用されております。また、育児休業取得率については、社内啓発活動を実施し、男性の取得率も2022年度実績で83%と向上しております。

CO₂排出量、CO₂排出原単位（国内）



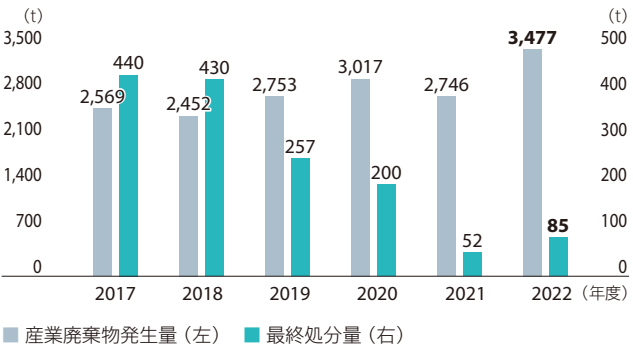
保土谷化学が排出する温室効果ガス（GHG）のほとんどがエネルギー起源のCO₂です。2022年度のCO₂排出量は、生産の減少に伴いエネルギー使用量も減少したことに加え、CO₂フリー電力の購入により、対2021年度比で減少しております。

SO_x排出量、NO_x排出量（国内）



工場で使用する原燃料の都市ガス化を推進し、2011年度で切り替えを完了させたことにより、SO_x排出量は2012年度より「ゼロ」を継続しております。また、NO_x排出量については、大気への排出を抑制する対策を行っております。

産業廃棄物発生量、最終処分量（国内）



保土谷化学グループは、中期経営計画で「対前年度発生量以下」をKPIとしました。2022年度の総発生量および最終処分量は、それぞれ対前年度比27%、63%増加しました。生産品目構成差等の影響もありますが、増加した事実を重く受け止め、取り組みを強化し、産業廃棄物削減に努めてまいります。